

月刊 DRF 2016 年 1 月号 No.72 January, 2016 掲載

今そこにあるオープンアクセス Clear and present Open Access

第 16 回 学位論文をプロクエストに提出するよう義務付けているか？

Are students required to submit their dissertations and theses to Proquest?

首都大学東京学術情報基盤センター 栗山正光

[本誌 2015 年 1 月号](#)で、欧米における学位論文のリポジトリ登録義務化をめぐる議論についてお伝えしたが、およそ 1 年が経過した 11 月下旬、同じ [SCHOLCOMM](#) メーリングリスト上で、再び学位論文の扱いに関する議論が開始された。

発端はロヨラ大学の図書館員からの、大学が学位論文の提出要領を見直しており、院生にプロクエスト([ProQuest](#))への提出を必須とするかどうかが問題になっているので、他大学の事情が知りたい、という[質問](#)だった。プロクエストは、ご存知の方も多いと思われるが、米国議会図書館からも認定されている学位論文データベースの出版社である。前身の UMI 社の時代から全米の多くの大学と提携し、博士論文のマイクロ化、複製の販売などを行っており、米国の学位論文の流通に関して長らく独占的な地位を占めて来た。

これに対し、モンタナ州立大学の図書館員から、博士論文のみ必須になっているが、電子版学位論文(ETD)がリポジトリに登録されているのでメリットがなく、義務付けをやめてほしいと大学院側に要望しているという[回答](#)があった。ジョーンズ・ホプキンス大学も ETD 化をきっかけにプロクエストへの提出義務付けはやめた[とのこと](#)である。

一方、ケント州立大学（オハイオ州）では [FAQ](#) で ETD について学生向けに詳しく説明している。それによれば、大学に提出された ETD は、[オハイオリンク ETD センター](#)という組織で管理されると同時に自動的にプロクエストへも提出される。間接的に必須となっているわけである。あなたの論文がプロクエストから売れば印税を受け取れるかもしれないなどとも書かれている（オハイオリンク ETD センターから同じものが無料公開されているのだが）。

派生して、学生からリポジトリ公開の許諾を取っているかという[質問](#)も出て、デューク大学ではリポジトリでの公開が学位取得の条件となっている（エンバーゴ申請は可能）との[回答](#)があった。また、カーネギー・メロン大学の図書館員から、リポジトリへの登録は強く推奨されているが必須ではなく、プロクエストへの登録もオプション、すなわち同大図書館では博士論文の網羅的収集はできていないとの[告白](#)などもあった。

実はプロクエストに関する各大学の方針をまとめた簡単な[リスト](#)はすでに作成・公表されており、この一連の議論の中でも真っ先に紹介された（ただし、このブログはすでに更新を停止しており、情報が古い）。それとは別の[リスト](#)もグーグルのスプレッドシート（表計算と訳すと何か違う）で公開されている。

メーリングリストに寄せられた情報の[まとめ](#)を見ると、有力大学のプロクエスト離れが起きているように感じられる。プロクエストは ETD の国際的な連合組織 [NDLTD](#) のパートナーでもあるのだが、各大学がリポジトリで学位論文を提供する方向に進むとしたら今後どうなるのか。一商業出版社のことながら気になるのである。